

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	(株)やま		
事業所名	グループホームうららびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原3384-3		
自己評価作成日	平成29年12月23日	評価結果市町村受理日	平成30年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai.1.2017_022_kani_tru&sj_gvosyoCd=2172400257-00&PfCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改修したホームでありながら各居室はゆとりある広さがある。和室や食堂兼共有ルームは鴨居や障子がしつらえてあり家に住まう感覚を提供できる環境で高齢者に馴染みやすい。外出、散歩、ドライブ、買い物、いきいきサロンや地域交流の場に参加、また家族との繋がりを大切にしていただけのようなホーム開催の行事(コスモス祭り、ホーム食事会、予防体操参加)を催し交流したり定期面談を2~3か月ごとに設けホームの生活と地域、家族の繋がりを大切にしている。また医療ニーズには、かかりつけ医、訪問看護ステーション、認知症専門病院と医療連携を取り、その方の身体精神症状に適した個別対応を受診連絡票等で情報の共有化に努め体調管理サポートの充実、24時間緊急連絡体制で安心して生活して頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外観は洋風、屋内は和風の古民家を改修した事業所である。管理者始め、勤続年数の長い職員が「ゆったり利用者のことばを待つ」急かせない支援をしながら関係を深めている。利用者と散歩や、地域住民と出会う場所(サロン・保育園・地域行事)に出かけ交流している。事業所の毎年開催するコスモス祭りは、家族や地域住民が大勢集まり交流できる場となっている。健康であるために、旬の食材を献立に取り入れ、特に糖尿病食対応の食事を重視し、栄養士の指導で五穀米を取り入れている。又、医師と連携し日常の健康管理を充実している。虐待防止・身体拘束をしないケアの研修を受け、職員間で共有し、利用者本位を基に利用者・家族・職員と笑顔の絶えない事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、住み慣れた地域で暮らし続ける「認知症の人」への自立支援を念頭にその方が「言葉を発するまで一呼吸おいて待ちます」を実践につなげている。	管理者は職員と一緒に理念を振り返りながら、年毎に目標を話し合い玄関に掲示している。利用者を見守りながら、ゆっくり言葉を待ってから支援することを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板によって情報を知り、サロンや神社祭りに参加し交流をしている。事業所のコスモス祭りは回覧板やポスター、チラシを配り、地域住民の参加で交流ができ、利用者の楽しみとなっている。保育園の運動会への招待を受けて参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者への支援、グループホーム共用型のデイサービスを来年度開催予定し行政と協力している。地域の社会資源としての活動を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している行政地域代表ご家族ご利用者様にも参加して頂いている。ホームからの発信として地域の独居の方にも気兼ねなく行事に参加頂ける様な行事を計画し民生委員さんを介し参加している。	会議では、参加者と意見交換が盛んに行われている。独居住民への声かけの依頼や、区長から地域の避難訓練の知らせ等、協力し合える取り組みを話し合っている。事業者内での認知症共用型デイサービスの開設予定の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町住民課、包括、在宅支援センターとは連絡情報交換し合い、ホームの取り組みを伝え、また包括主催の認知症カフェにも積極的に参加している。	市町村の会議に参加し、書類を持参したり、電話やメールでも情報交換したりしながら協力関係を築いている。デイサービス開設に向けても説明や書類について頻回に出向き指導を受けている。カフェで「認知症について」講師依頼を受けしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束禁止の意義を、勉強会を開いて共有している。身体拘束の研修に職員を参加させ職員の理解共有に取り組んでいる。管理者は言葉使いも注意するよう話している。家族には契約時に丁寧に説明し理解を求めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研究に参加、事業所に持ち帰り勉強会を開き、日頃のケアで虐待を見過ごさない、見落とさない様注意を払い防止に努め、研修資料をいつでも閲覧し情報として活用している。		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の身上監護人さんとは推進会議やホーム行事へ参加して頂き、関係者との必要な支援体制について常に連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との定期面談はケアプラン更新時、体調管理時に設けるか必ずご家族やご利用者の意見要望を聞き、また来訪されるご親族様からも意見を拾う様心掛け、職員から管理者への連絡報告を受け反映させる様努める。	家族に便り「うららびより」と一緒に利用者の写真や様子を知らせて意見を聞いている。訪問時にも職員は声をかけ要望など尋ねている。家族と一緒に食事会をしたり、遠方の家族には、手紙や電話を掛けたりして要望や意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関し職員からの意見は面談を通じ求めている。グループ内他事業所の車を借りる等して、運営状況を見る機会を設けている。	個別面談やアンケートで意見を聞いて運営に反映している。毎月の会議にパート職員も参加し意見や要望を聞いている。又、日常的にも気軽に管理者に相談している。要望から、洗面所の手拭きタオルをペーパータオルに変更し、小屋の修理もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族等で見学して頂き本人の困っている事や不安をよく聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の不安や意向等を十分聞き取り対応出来る事出来ない事を説明し理解して頂いている。親しみの心を持って耳を傾け信頼関係がもてるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居、本人や家族にとって最善な方法か検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からは昔の風習や戦争時代の苦しい体験等を聞き学ぶ事が多い。人生の大先輩として尊敬し関わりを持っている。それぞれの利用者が出来る事見極め、茶碗拭きや洗濯たたみなど役割を持って生活してもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や、情報を入れている。家族も出来るだけ協力して頂きケアプランにも家族との時間がもてるサービスを組み入れ共に本人を支える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と顔を合わせるような場所には出来る限り出向いて行けるよう支援をしている。	入居前に得た情報を基に、敬老会、同窓会への参加支援や、事業所の行事に呼びかけながら関係の継続を支援している。散歩時に友人を訪ねたり、事業者へ迎えたり途絶えない関係に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や感情の変化を理解した上で利用者同士が関わり良好な関係が持てるよう支援している。		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族様から相談を受ける事もある。(身内の困った事等)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一になれる機会を作ったり入浴時など打ちつけて話の出来る機会を重視している。	1対1になれる夜間や入浴時など話しやすい場面を作ってゆっくり聞いている。苦労話、昔話など気づいたことを生活記録に残し、職員間で共有している。意思疎通が困難な利用者には表情やしぐさから把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境を出来るだけ変えないよう家族や利用者から生活情報を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れや本人の思い、出来る事出来ない事を把握し新しい気付きなどは記録に残し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの気付きを含めて申し送りやカンファレンスで話し合い心身状態や暮らしぶりを反映させている。職員でケアマネ有資格者を中心に2人一組で月ごとに介護計画を立てカンファレンスで活用している。	事前に家族・医師の意見を聞き、担当職員がモニタリングをしている。気づき記録をみながら会議で話し合い、介護計画を作成している。機能低下や退院時も見直し、福祉用具の変更も検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違う様子や職員の気づきがあった場合詳しく記入するようにしている。また必要に応じて計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が受診に同行出来ない際の受診の付き添いや外出などその時のニーズに応じて出来る限り柔軟に対応している。		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のいきいきサロンに参加し日頃から顔見知りの関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な場合適切は医療機関を受診出来るよう家族と話し合っている。家族対応には受診連絡票でホームから往信し医師から返信いただき情報の共有と連携をとっている。	かかりつけ医・協力医については本人・家族の意向に合わせている。協力医の訪問診療も入居者全員が受けている。専門医等への家族同伴受診には受診連絡表で連携している。家族の都合に合わせて看護職員が代行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算により常に看護師と細やかな相談ができ、適切な看護や受診が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族や医療機関へ連絡して情報交換をしている。また定期的に面会を行い家族や医療機関と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとにご家族の意向を確認し医療機関と連携して支援を行っている。	契約時に事業所の方針を説明し同意書を交わしている。状態の変化に合わせて、医師と話し合い家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。看護職員が職員に看取りの研修をし、家族の宿泊にも応じている。利用者と共に最後を見送ることもある。	
34		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応出来る様確認を行っている。今年はホーム推進会議でAED講習会を開いた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合い避難訓練、利用者参加で行っている。個別の防災訓練は毎月。災害時の食料や物品等を備蓄している。もし災害があればホーム備蓄も提供できる旨を推進会議や区長さんなどに声掛けをしている。	夜間想定を含め避難訓練を実施している。法定以外に、事業所独自でも訓練を実施し、災害時の対応を話し合っている。独居住民の避難場所に事業所を提供している。二階利用者の避難階段が使用困難と消防署から指導があり職員間でも対策を検討している。	2階ベランダからの避難方法や策を早急に解決されたい。運営推進会議等でも地域への協力をされることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の気持ちをくみとり思いに添える言葉かけを心がけている。また1人の時間を持つように椅子やソファを配置している。	職員は、利用者の人格を尊重して、言葉使いや笑顔で接するように注意し合っている。居室の出入りは利用者が不在でも「ノックして、すみません」と声かけをするようにしている。利用者のできる事を尊重し、自己決定の支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや飲み物など選択して頂けるよう支援行っている。自己決定の難しい方には普段からのコミュニケーションを通じて表情など読みとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の体調に合わせて、見守り・声かけしながら自由に居室で過ごして頂くなど配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにご家族様の協力もあり衣替え行っている。外出の際にはなるべくご本人に着るものを選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑や収穫した野菜など旬のものを提供できるよう心がけている。調理法を教えて頂いたり、味見をして頂くなどして参加して頂いている。	畑で収穫したもの、頂き物など旬の食材を豊富に利用者の好みを取り入れて調理している。職員も庭の果実の成熟期や、食べ物の話しをしながら食卓を共に楽しんでいる。利用者に教えてもらいながら梅干・干し柿・花餅を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下能力に合った食事形態で提供している。水分量は毎日1.2~1.5ℓ確保出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に合わせ、洗面所、自席、自室などで口腔ケア1日2~3回行っている。義歯は夕食後洗浄剤に浸し清潔保持行っている。		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレを利用されている。排泄表を見ながら適時声かけし、拒否のある場合は時間をおいて声かけしている。	昼間はトイレでの排泄を支援している。家族の協力を得ながら布パンツに変更できた人もいる。夜間のみ、利用者の状態や状況に応じてポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のない日数を把握し、お茶や水分を多めに提供したり、体を動かすレクや散歩に声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みのお湯の温度で入浴して頂けるように順番など考慮している。季節によりゆず湯やしょうぶ湯を提供している。	基本午後入浴としている。湯温・順番・長湯・毎日の希望にも応えている。職員との会話を大切にゆったりとした入浴を心がけている。季節の柚湯・菖蒲湯・入浴剤などを用意し楽しみとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて日中も居室で休息して頂いている。シーツ類も清潔保持を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは全員に理解出来るよう申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や調理の下ごしらえ、梅干しや干し柿などの季節ごとに作っている。ドライブや地域の催し物などに参加し気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回は必ず全員で行事外出している。ご家族との外泊外出もあり毎月のカフェやホーム内の庭での外気浴などされている。	天候に合わせて、車椅子の利用者も一緒に散歩やドライブに出かけている。散歩のコースを変えたり、広い敷地内を一回りしたりしている。体調に合わせてベンチで外気浴にするなど工夫をしている。家族と外出や外泊に出かけ、同窓会・敬老会など職員が同行することもある。	

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で所持されている方もいる。外出時や必要な物品があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、家族の協力などで電話の使用もある。(年賀状や同窓会の連絡など手紙も同様)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のホームであるため、和室や床の間など馴染みのある空間がある。庭の花や果実などを飾り季節を感じてもらえるようにしている。	広い玄関に入ると蠟梅が活けてあり、手作りの花餅が季節を感じる。又、利用者の似顔絵が飾られている。二階居室は天窗からの自然光で明るい。窓際の椅子やソファが居心地よい居場所となっている。和風住宅の改修で廊下も狭いが手すりで補い、畳・障子・鴨居と和風の風情を残している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽当たりの良い場所や静かに過ごせる場所などにソファを配置している。和室では座って洗濯物など畳んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンスなど使い慣れた物を、本人家族が相談し配置されている。	居室の広さ、つくりが個々に違い、利用者の好みに合わせた配置に、タンス、椅子、人形ケース、衣服ハンガー、ストレッチ用具、雑誌等を持ち込んでいる。利用者がシーツ交換したり、できる事をしながら居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやエレベーターで自由に歩行したり自室へ行くことができる。夜間はセンサーを設置し安全に配慮している。		